

## 4月の植物

### イスノキ (マンサク科)

学名 : *Distylium racemosum*

花は4~5月、葉腋に円錐花序を出し、上部に両性花、下部に雄花が2列つく。両性花には褐色の毛におおわれた雌しべがあり、上部は2列し、雄しべは5~8個ある。果実は長さ7~10ミリの広卵形、表面には褐色の毛が密生する。熟すと2裂し、長さ5~7ミリの楕円形の種子を出す。イスオオムネアブラやイスノキコムネアブラなどのアブラムシの仲間によって、いろいろな虫えいができる。

わが家には幹回り35cmのイスノキがあり、ちょうど花が咲いている。花の観察には3月末の今がよい。柏岳の上の駐車場にはイスノキの老木あり、虫えいをたくさん見つけることができる。下の写真の笛はここのものである。

イスノキの用途については、材は緻密で重いため、木刀やそろばんの玉、建築材、器具材に利用される。また虫えいもタンニンを多く含むため染料として用いられる。

イスノキという名前の語源については不明。木化し虫がいなくなった虫えいを吹くと、ヒョウと音を発するので“ヒョンノキ”という別名がある。(文責：小池英毅)



イスノキの樹皮



イスノキの花



イスノキのめしべ



イスノキの“笛”